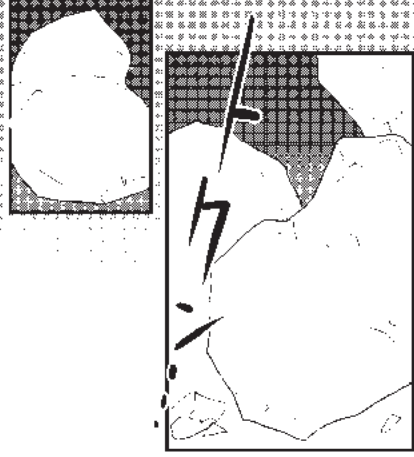


この下浦は
宝の山だ！

なんて
美しいんだ

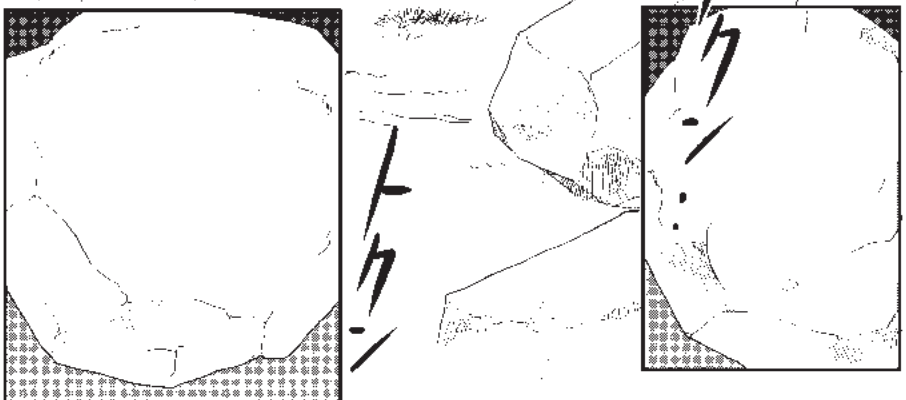
まるで：
この世に
生まれる日を
今か今かと
待っている
赤ん坊みたいだ

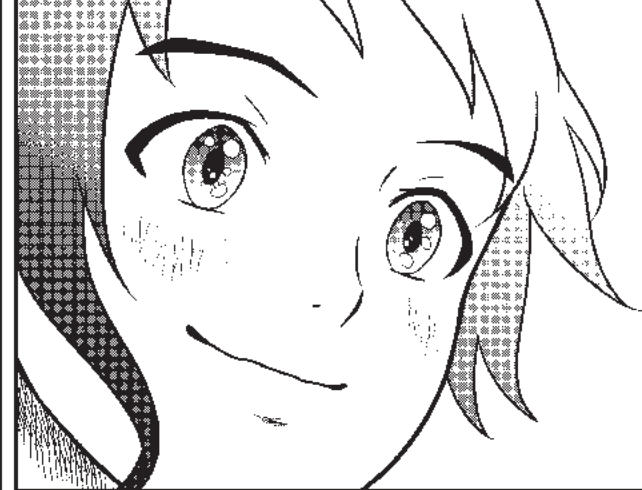


いや..
夢じゃない

俺には見えるよ
石の二つ一つに
眠っている
無数の命が..

その鼓動が
聞こえるよ

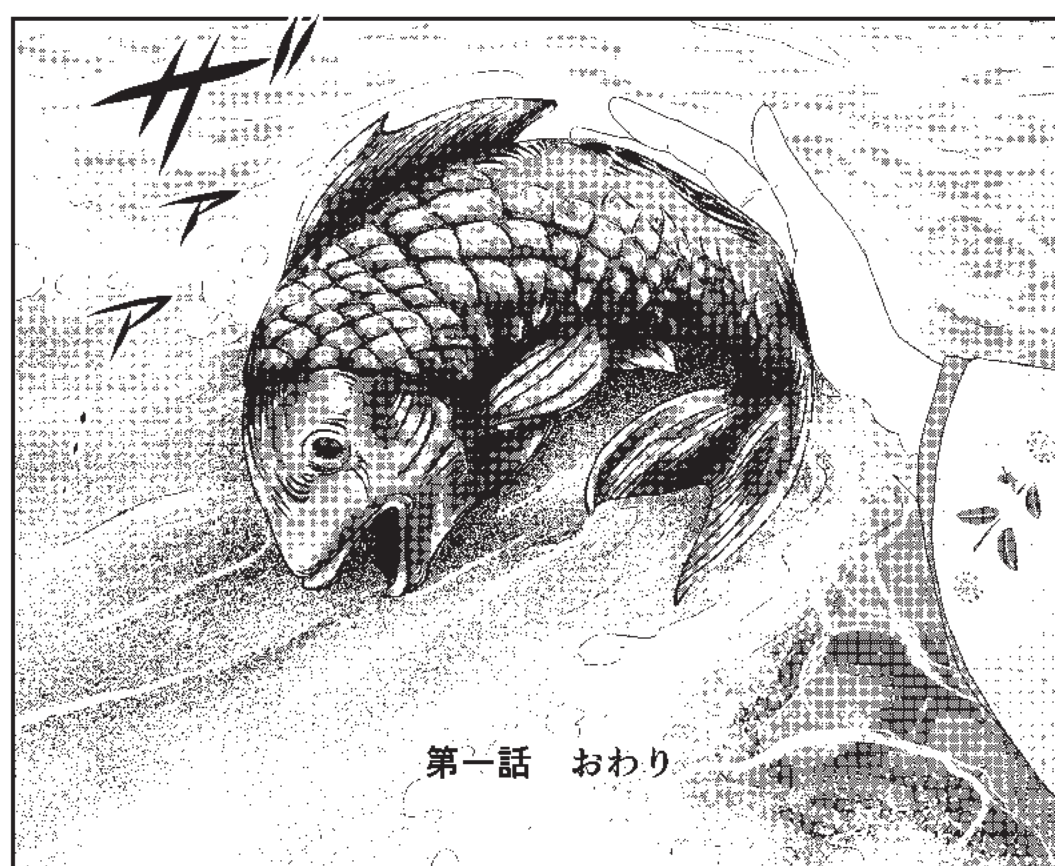




何これ？
かわいい



どうしたんだ
喜助のやつ
にやにや
して……



第一話 おわり

コラム
column

天草は石の島

みなさんは、天草と言ったらどんなイメージを持っていますか？ 海がきれい、魚が美味しい、歴史、観光、文化あふれる島々などを思い浮かべるのではないでしょうか。

実は、天草にはあまり知られていない別の顔があるのです。それは天草が「石の島」であることです。ここではいろいろな種類の石が採れたことから、独自の「石文化」が発達してきました。

地図を見てください。まず、上天草市の大矢野島では江戸時代から墓石の材料として飛岳石(ひだけいし)(安山岩)が利用されてきました。また天



▲ジオサイトマップ:天草ジオパークHP
(<http://amakusa-geo.amakusa-web.jp/MyHp/Pub/Free.aspx?CNo=1>)

草砥石（流紋岩）の産地としても有名な下浦石（砂岩）です。

天草上島では倉岳町棚底の石垣、松島の石灰岩、御所浦島の化石群、姫戸の巨石群なども見逃せません。天草下島には御領一帯から出る灰石（凝灰岩）、西海岸線には上質の陶石、そして無煙炭と言われる上質の石炭が採れます。各地で採れる石材にはそれぞれ特徴があるので、どこにどういう石を使ったのかという「適材適所」という考えが発達して来たのも天草の特徴です。

天草上島は松島、栖本などでも独特の石が採れますが、中でも有名なのが下浦石（砂岩）です。ここでは江戸時

代から石工が大きな勢力を持っていた。この下浦石工たちが本編の主人公です。

このように、天草は多様な石が豊富にあることから、それに伴い石材、陶器、石炭、砥石などを利用した産業が発達し、石積み技術、干拓用の護岸工事技術、石材加工技術などが進みました。そして、それらの技術を用いて石橋、鳥居、狛犬など石を使った建造物を見ることが出来ます。まさに天草は「石」という宝物で溢れる島ということができるでしょう。

コラム column

貧困にあえぐ天草を救った北野織部

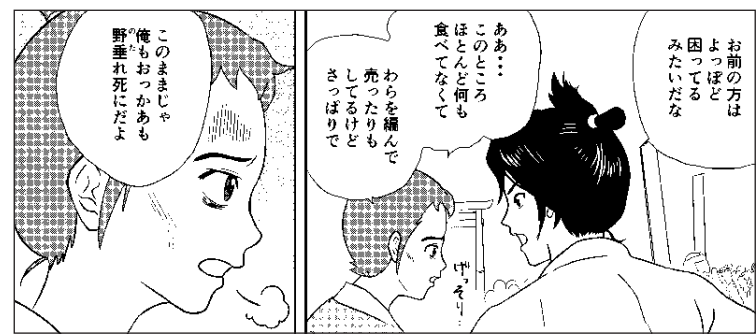
水産物は豊富な天草ですが、農業はどうだったのでしょうか。天草はもとも耕地が少なく、土壌も水田耕作にはあまり適していませんでした。その上、二部の地域では金貸しや地場産業を起こした「銀主（ぎんし）」と呼ばれる資本家が登場します。そこに富が集まると農民たちの生活はますます苦しくなりました。

その結果、江戸時代の終わり頃には天草全土を巻き込んだ大規模な百姓一揆が起こります。各地で立ち上がった農民たちは、次々に銀主の家を襲い、打ち壊しを始めます。これが「弘化の

天草揆」と呼ばれるもので、結果的に農民たちはますます苦しい生活を強いられ追い詰められました。

そのような中で、天草が貧困から抜け出すためには、みんなで天草以外の地域に出稼ぎに行くしかないと考えた人が登場します。御領（こりよう）の銀主である小山家から赤崎（現在の有明町）の庄屋に養子に出されていた北野織部（おりべ）です。

その頃、長崎奉行は近く開港予定の長崎に外国人居留地の造成を迫られていましたが、それを請け負って行くと見つけからず頭を痛めてい



このままじゃ俺もおつかあも野垂れ死にだよ

お前の方はよっぽど困ってるみたいだな

ああ...このところほとんど何も食べてなくて

わらを痛んで売ったりもしてるけどさっぱりで

■ 石工の里・下浦町

天草市下浦町は、下浦石と呼ばれる石材の産地。このため、石材を扱う石工文化が栄え「石工の里」と呼ばれています。宝暦10年(1760)に松室五郎左衛門という浪人が石工技法を伝えたのがはじまりといわれ、五郎左衛門の墓碑が下浦地区に現存しています。天草市の石橋はもちろん、長崎オランダ坂の石畳など県外でも下浦の石工は活躍していたようです。



▲ジオパーク推進協議会より提供 (<http://amakusa-geo.amakusa-web.jp/Geopark/pamphket/011.pdf>)

ました。そこで織部は天草全土に広がっている石工、船大工、大工のような技術者集団、海運業者、金融業を集めて大規模なプロジェクトチームを結成することにしました。

小山家の資本をもとに、オール天草チームを結成して事業を成功させ、そのお金を天草に還元してこの貧困から抜け出させようと考えたのでした。



しかしその道のりは厳しいものがありました。各地から集められた技能集団の間の争い、長崎の住民や外国人技能集団とのトラブル、不慣れた工事のためなかなか進まない仕事、外国人との契約の仕方のちがいが、相次ぐ海難事故や工事中の事故、膨れ上がる工事費などが織部たちの前に立ちまはります。



コラム column

下浦ってどんなところ

このマンガの主な舞台となっているところは天草上島にある下浦というところ。入江や湾が多く複雑な地形をしており平野部が少ないので、昔から遠浅の干潟を締め切り新しい田んぼを開発するための干拓が行われていました。

下浦の中でも特に有名なものが3つあります。1つ目は「天草ぼんかん」の発祥の地がここ下浦であること、2つ目は「下浦神社の獅子舞」、そして3つ目が「石工の里」であることです。大正の終わり頃、天草みかんの先駆者と言われる下浦の吉田敬太郎氏の



▲ぼんかんの原木



▲ぼんかん発祥の地で行われた記念行事

下浦ってどんなところ

すすめで、同じ下浦の松岡新太郎氏がぼんかんの栽培を始めました。甘い香り、さわやかな酸味とコクでぼんかんは大評判となり、天草全体でも栽培されることになったのです。この功績を称え、昭和63年にはぼんかん導入65周年の記念行事が下浦で行われました。ぼんかんの原木は今でも下浦に残っています。

下浦神社では、毎年10月の第3日曜日に下浦祭が行われます。太鼓、鳥毛(とりげ)、はさみ箱、立傘、獅子、稚児(ちこ)行列、樽神輿(たるみこし)行列と続き、最後が獅子舞です。勇壮で優雅で活発な舞は、見物客を圧倒し飽きさせることはありません。

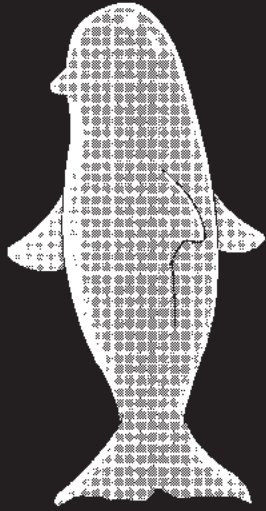
海外公演も行われたことがあるほど有名です。

3つ目の下浦石工についてはページを改めて説明しましょう。



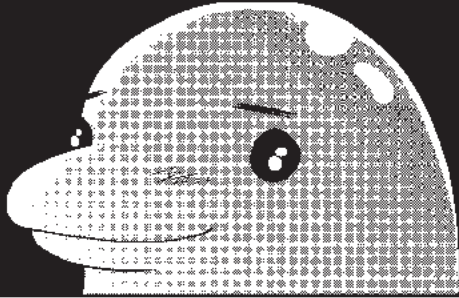
▲下浦獅子舞

ミーモン…



ミーモン？

ごめんね
キスケ



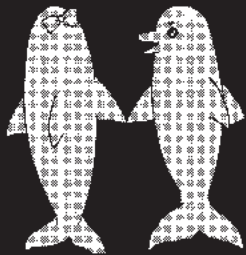
もう
行かないや

ボクにも
好きな子が
できたんだよ

ミミって
いうんだ
えへ

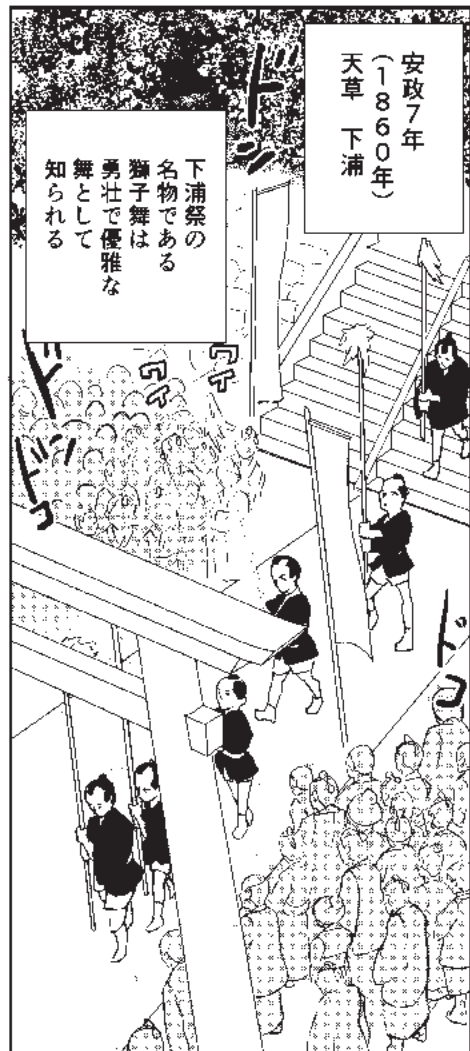
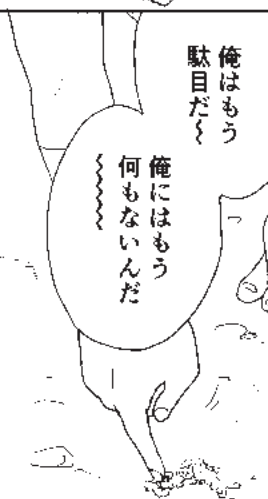
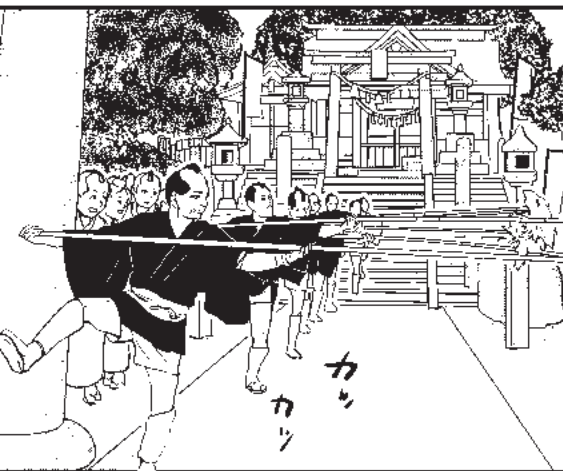
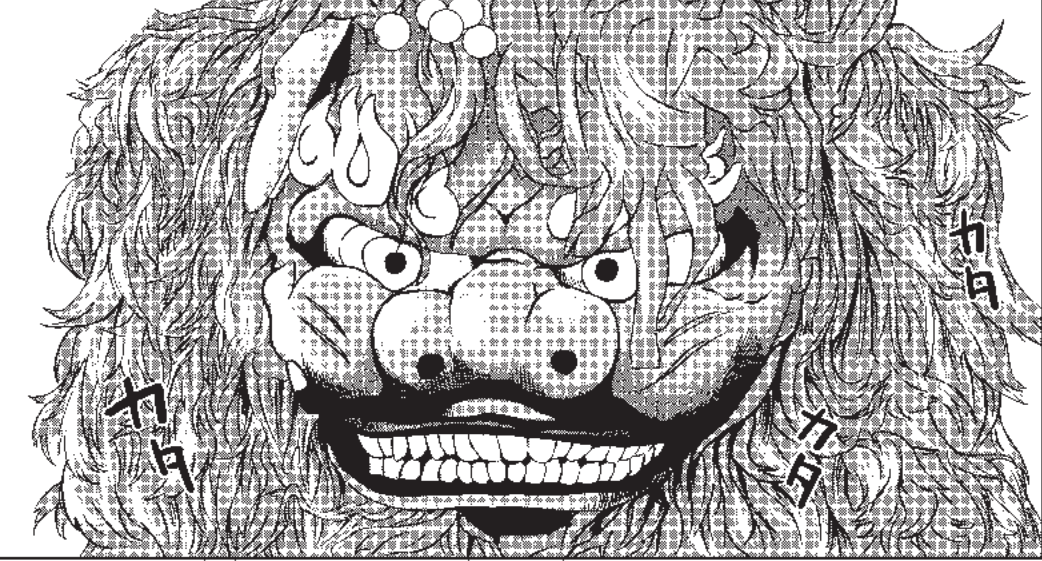
これからは
自分でお魚
とってね

さよなら
キスケ

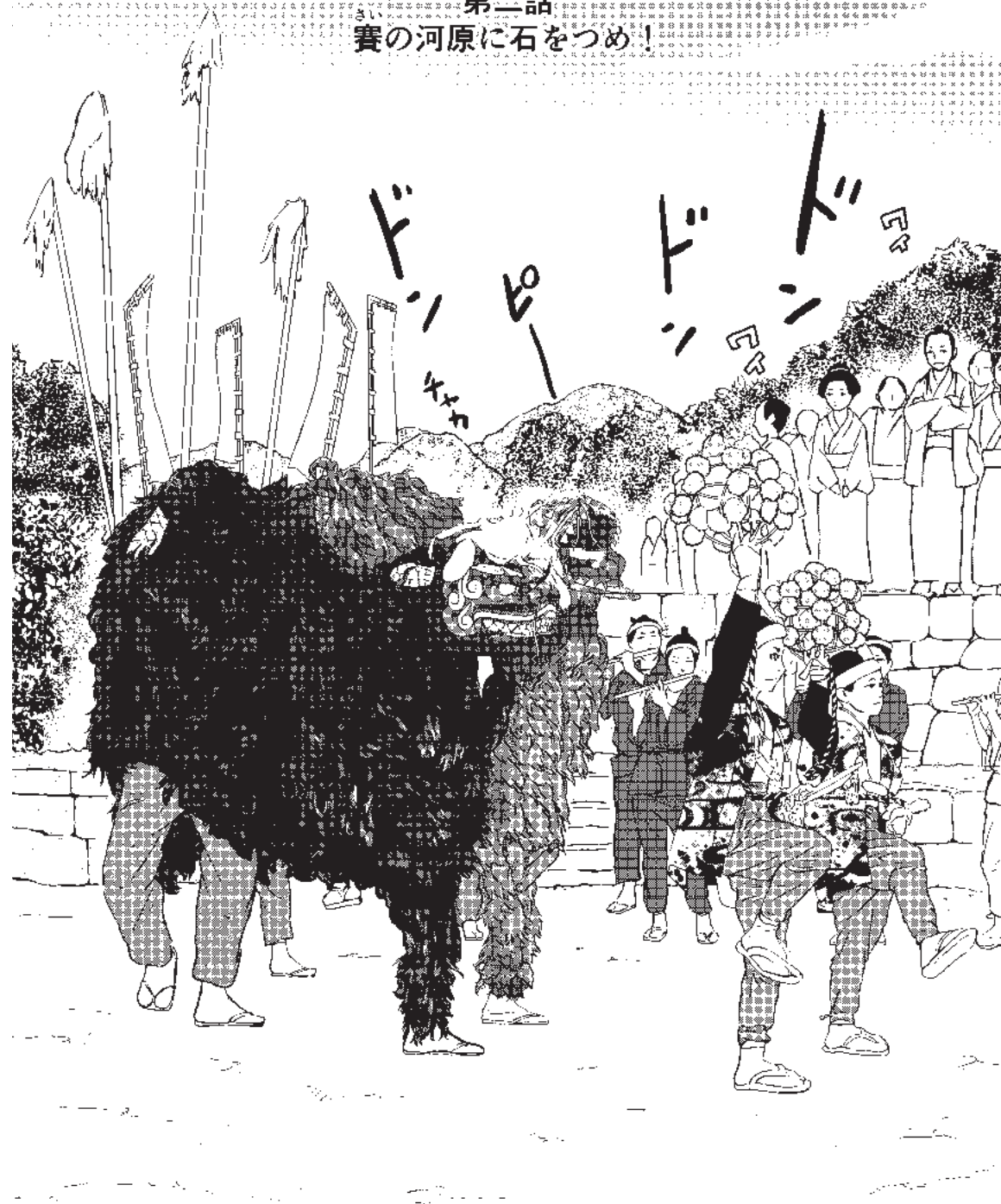


待つてくれ！
ミーモン





第二話
賽の河原に石をつめ!





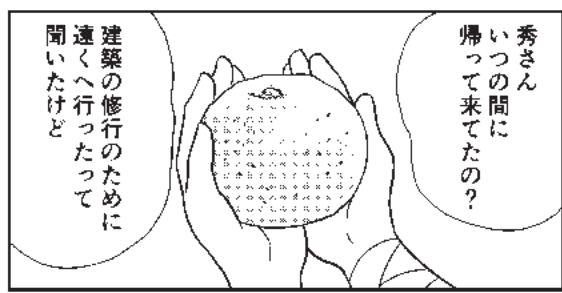
一度でも
欠かしたことが
あったかね

ばかたれ
祭り見物は
俺の命



なんだその
アオテ石みたいな
顔色は

あんまりしけた
ツラしていると
福も寄りつかんぞ



秀さん
いつの間に
帰って来てたの？

建築の修行のために
遠くへ行ったって
聞いたけど



このままじゃ
俺もおっかあも
野垂れ死にだよ



お前の方は
よっぽど
困ってる
みたいだな

ああ...
このところ
ほとんど何も
食べてなくて
わらを編んで
売ったりも
してるけど
さっぱりで



いい話が
あるんだ

いい話？



ははは
なんだ
そんなことか

それなら
この秀之進に
任せとけ



あの頃は
楽しかったなあ

俺が釣り糸を
垂れたら
ミーモンが
魚の群れを
追い込んで
きてくれて

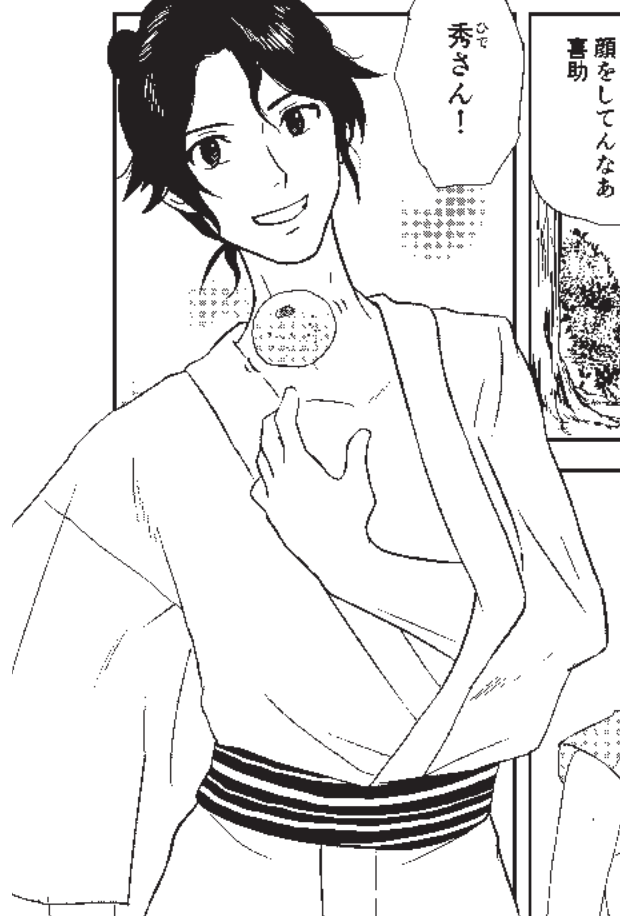
俺たちは
最高の相棒
だったんだ



ミイモ〜ン
どよ〜ん



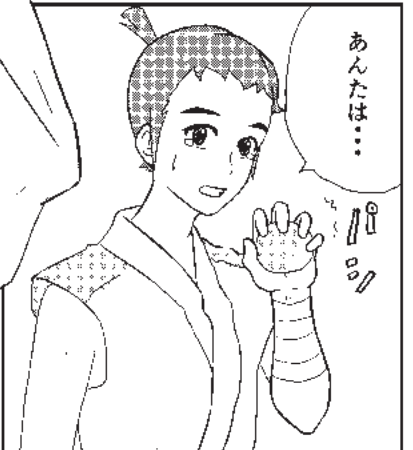
秀之進 建築を学ぶ職人の卵。
織部の弟・天草一の銀主・小山家の跡取りとなる。



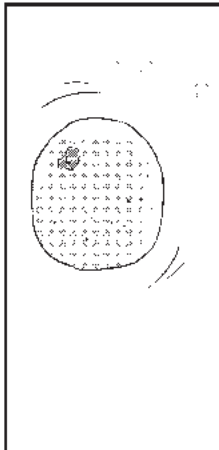
秀さん！

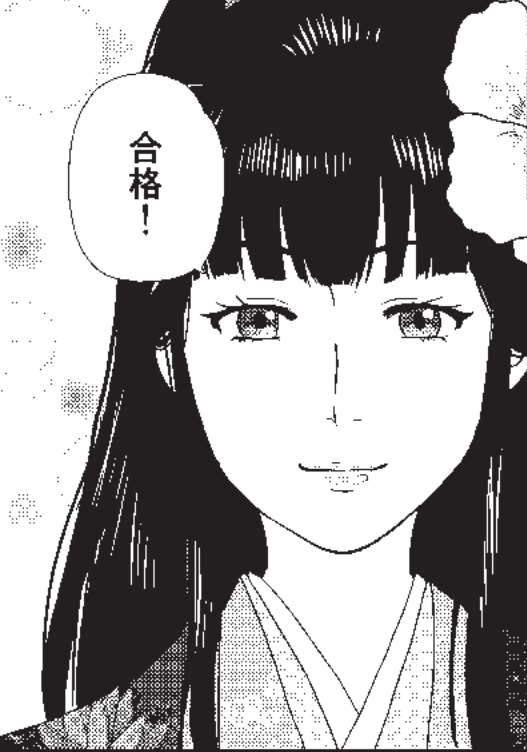


また
しょぼくれた
顔をしてんなあ
喜助

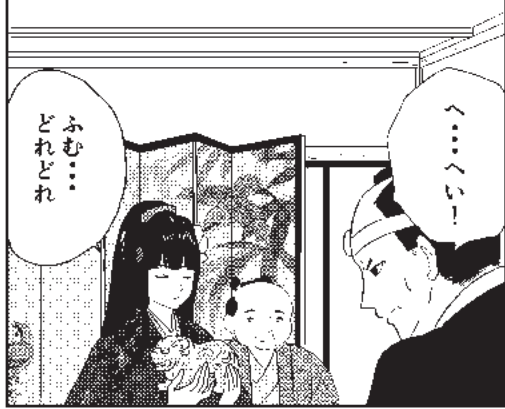


あなたは...



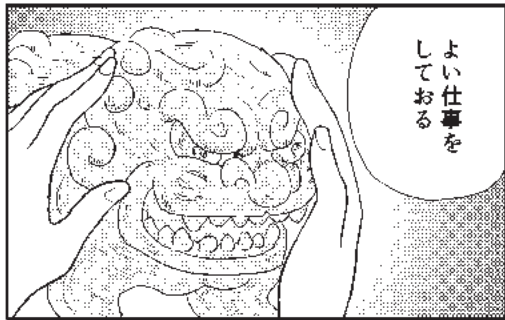


合格!



へ...へい!

ふむ...
どれどれ



よい仕事を
しておる



ほんとか!?
秀さん

ああ...
うまくすれば
大出世だぜ

ただ...



俺の兄貴にして
天草一の実力者
赤崎の織部が
天草じゅうから
職人をかき集めて
いるところだ

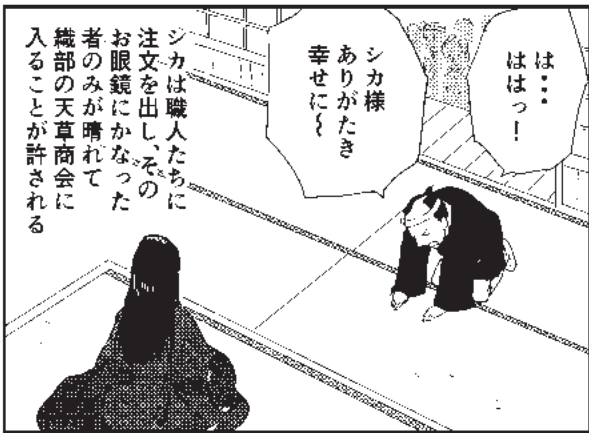
石工、大工、
鍛冶屋...それに
何百もの船もな

開港した
長崎の港での
大工事のために
とにかく人手が
足りないんだ



計算高い兄貴は
シカ美貌を
うまく利用して
人集めをしてる
ってわけだ

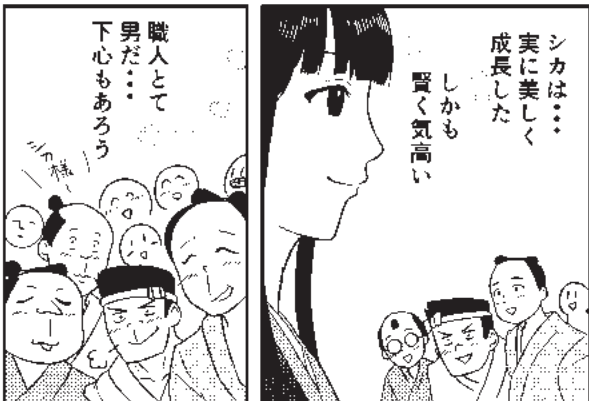
次が
最後です



は...
ははっ!

シカ様
ありがたき
幸せに

シカは職人たちに
注文を出し、その
お眼鏡になかった
者のみが晴れて
織部の天草商会に
入ることが許される



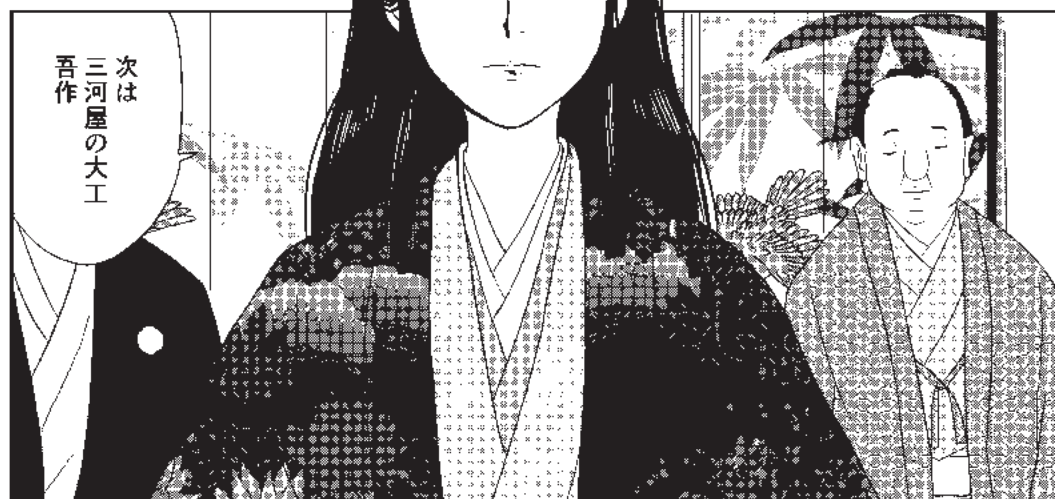
シカは...
実に美しく
成長した

しかも
賢く気高い

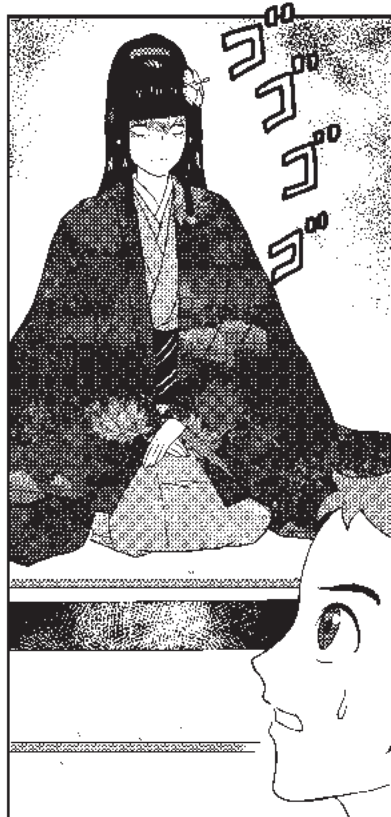
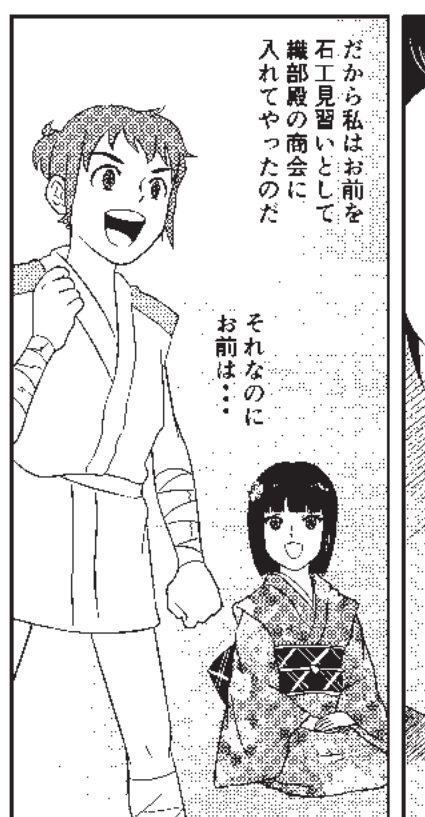
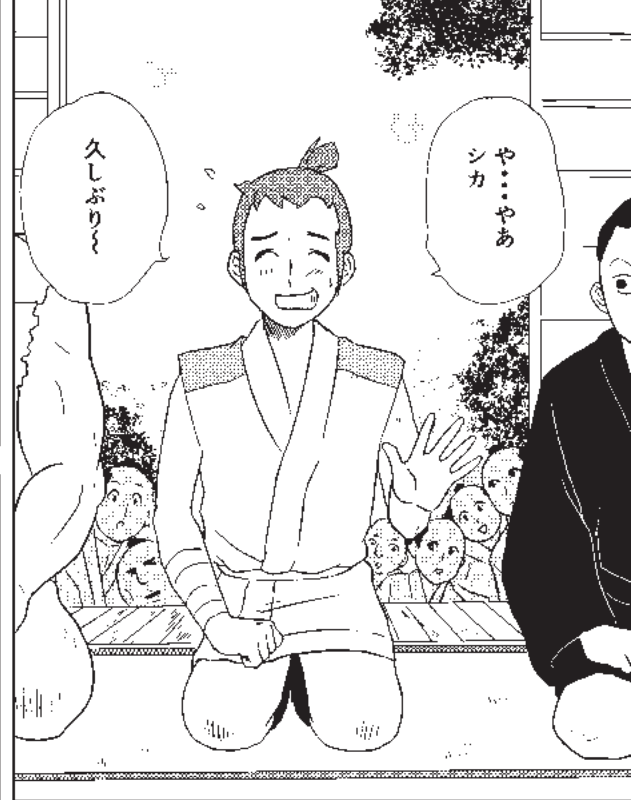
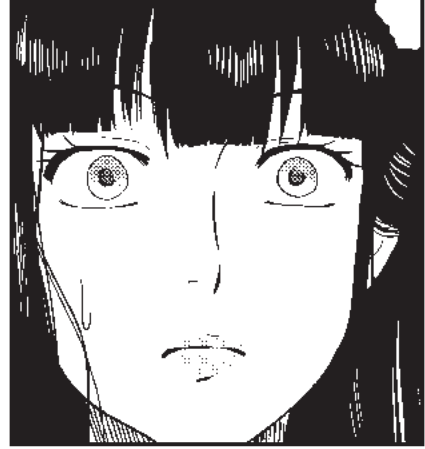
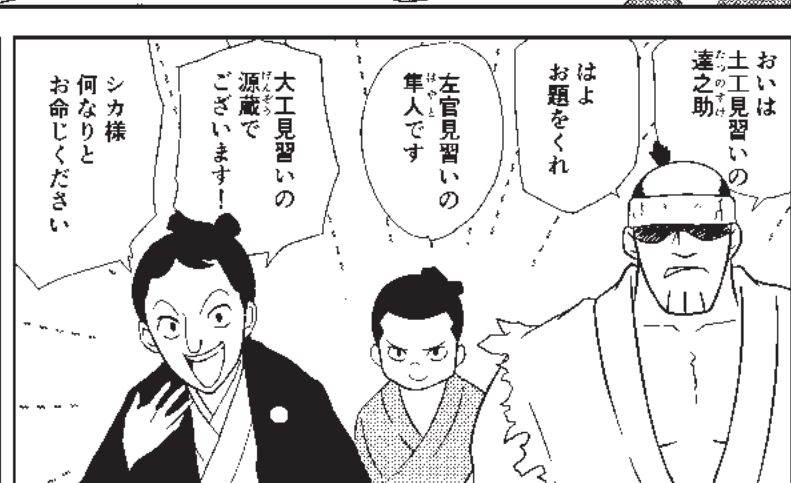
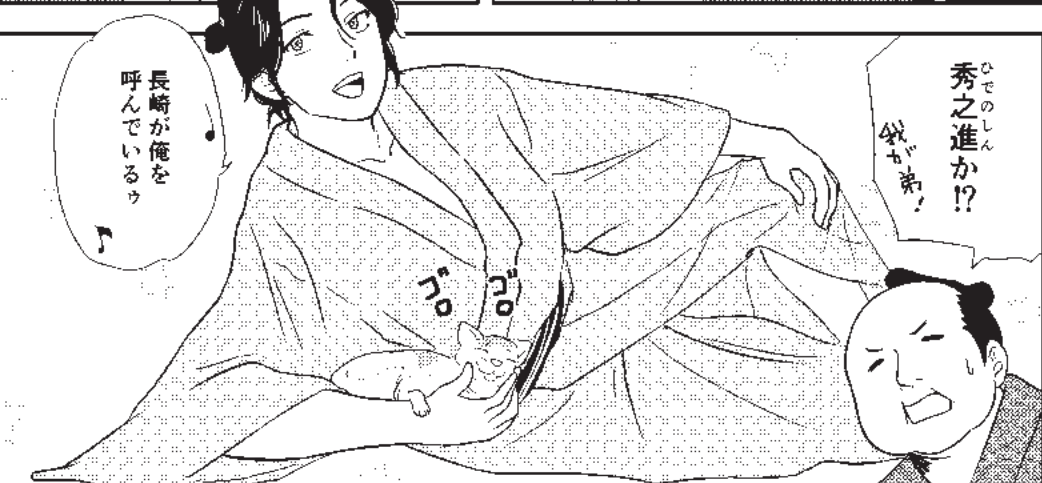
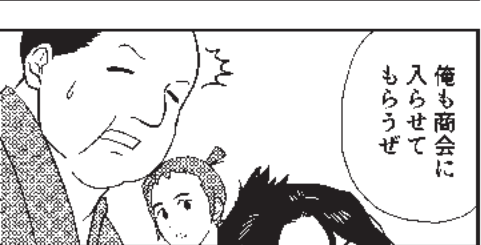
職人として
男だ...
下心もあろう



あそこには
なかなか手ごわい
番人がいてな...

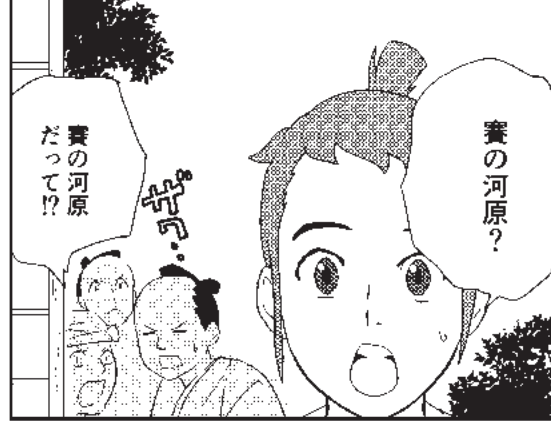


次は
三河屋の大工
吾作





喜助 どうじゃ？



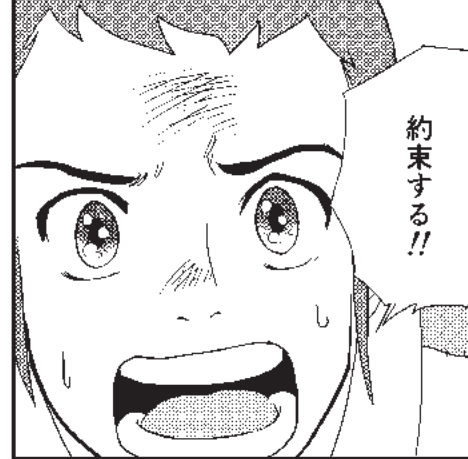
賽の河原？

賽の河原 だって？



生活の道を閉ざされ困っている者がいる

下浦の民の暮らしを 守れぬ者に 長崎の大仕事 務まろうか



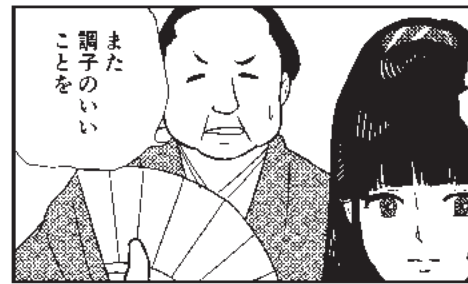
約束する！！



俺が悪かったよ あやまるよ

もう一度だけ 信じてくれ

今度こそ俺は 本物の石工に なってみせる



また 調子のいい ことを



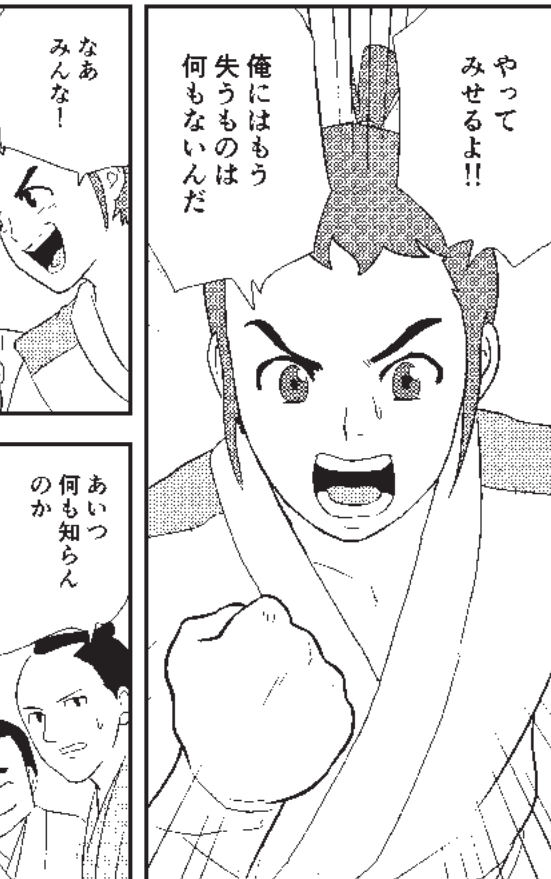
なあ みんな！

おう...

げげっ!! なんだ こりゃあ!?

あわれな やつ

賽の河原が どんどころ なのか



やって みせるよ!!

俺にはもう 失うものは 何もないんだ



賽の河原に 行け!!



本物の石工 言うたな？



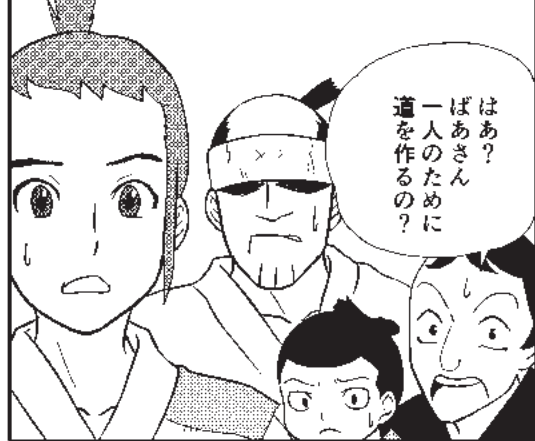
ならば 最後に残った 職人見習い 5人まとめて 注文を申し渡す

え!?



力仕事なら
この達之助に
お任せ!

うおおおおお



はあ?
ばあさん
一人のために
道を作るの?



とにかく
やるしかない

まずは積もった
土砂を除いて
道を通すんだ



地固めじゃ

水のためらん
ように道を
整えろ

ばあさんが
つけても
いかんからな

できた!



あれ?
秀さんは?

知るかよ

ふむふむ
ここの土は
粘土質だな

わっしよい
わっしよい



ここが
賽の河原か!!

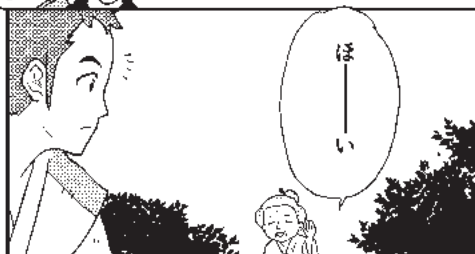
道があつたつて
話だけど

崖が崩れて
ひどい
ありさまだ

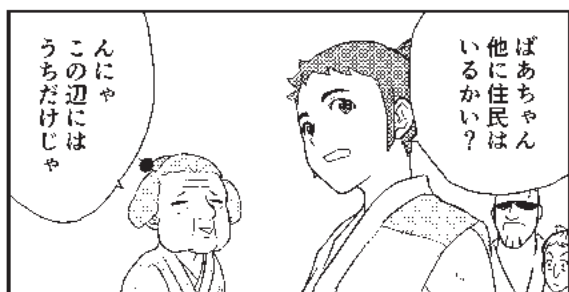


こん道がないと
畑まで遠回りを
せんといけん

困ったん
じゃよ



ほーい



ばあちゃん
他に住民は
いるかい?

んにゃ
この辺には
うちだけじゃ



あんたら
人足さんじゃな
ご苦労さん
ですばい



それで
賽の河原と
呼ばれて
いるんだ

どんなに
人の手を入れても
かないない場所



ここはな
兄者も大勢の
人足を使って
何度も道を
通そうとしたが
崩れてしまう

雨のたびに
このとおり
土がゆるんで
崩れてしまう



帰ろ
帰ろ

どうせ
はじめから
無理だったんだ

くそっ
ばかばかしい



なんでそれを
黙ってたんだよ

聞かれ
なかつた
からな



神頼み……？



みんな
待ってよ！
他に何か
方法が……

俺たちに
何が
できる？

あとで
できる
こと言ったら
神頼みくらい
だぜ



見ろ！
立派な道に
なったぞ

俺たちでも
やれば
できるんだ



翌日

ぎゃあ~~~~

ぐちゃあ

ゆうべの雨で
また崖が崩れて
ぐちゃぐちゃだあ



積みあがった
頃に鬼が現れて
それを崩すので
また一から積み
直さなけりや
ならん

永遠にその
繰り返した

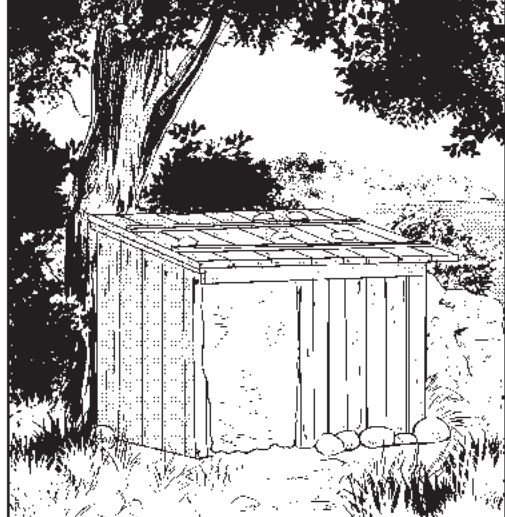
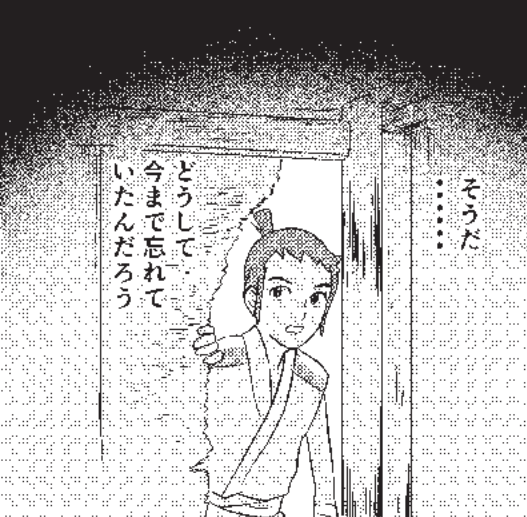
幼くして死んだ
子どもが
あの世とこの世の
境目……
三途の河原で
石を積み
話を聞いたことが
あるだろう？



はははは
お前ら
知らんのか

ここが
賽の河原と
呼ばれている
わけが

秀さん



その人の名は
五郎左衛門

